



駐日ロシア大使アレクサンドル・ロシュコフ閣下  
「最近のロシア情勢と日ロ関係」  
2004年6月21日 於:東京全日空ホテル

世界平和研究所は、日本財団の助成を受け、6月21日、東京全日空ホテルにおいてアレクサンドル・ロシュコフ駐日ロシア大使による「最近のロシア情勢と日ロ関係」に関する講演を開催した。

ロシュコフ大使は、この十三年間においてロシアは大いなる躍進を遂げ、ロシア国民は現代的な市場経済化や民主化の双方を大成功裏に達成したが、とりわけ、最近四年間は、プーチン大統領の大規模改革の続行が政治的安定を確立して高い経済成長が可能となり躍進は著しいと指摘し、さらに以下のように続けた。



2000年から2003年までの4年間におけるロシアのGDP成長率は6.8%を記録、同様に鉱工業生産高も7%近い伸びを示した。この間、失業率低下、連邦財政の黒字、外貨準備の850億ドル相当到達、実質国民所得の伸び53%、貧困層の大幅減少、ルーブルの安定など、ロシアは政治経済とも良好である。

次にアジア太平洋地域は、ロシアにとって以前から政治・軍事的に重要であったが、近年は貿易・投資とも拡大しており、中でも日本は重要なパートナーである。



また、アジア太平洋地域の将来見通しは明るく、強固な平和・安定の構築と政治経済的相互関係の強化が可能であるが、懸念材料としては、北朝鮮、台湾問題に加え国際テロリズムとの対決がある。

こうした国際問題の解決は多国間協議を基調として行うべきであり、一国主義的対応は解決にはならない。ロシアが目指すのは、アジア太平洋地域における安全保障の多極シ

ステムの形成である。

次に、急激なロシアの変化は日ロ関係の本格的な変換をもたらした。とりわけ、ここ一年半から二年においては質的な飛躍があった。両国首脳の対話をはじめさまざまな分野での協力・交流の発展があり、しかも依然としてその潜在性はきわめて大きいといえる。

現状、領土問題を除けば両国には本質的な問題は存在していない。過去の負の遺産を解き放ち、その上に立って平和条約を結ぶことが両国関係の雰囲気をも根本的に改善し、強

力なさらなるはずみをその発展に与えることが可能となろう。そして、それは北東アジアとアジア太平洋地域の安全と安定を著しく強化することにもなる。

ロシアは日本との国境線問題を解決したいと考えているが、解決には双方の歩み寄りと、両国国民の理解が前提である。

ロシュコフ大使は以上を指摘した上で、ここ数年で両国は真のパートナーシップ創造をめざした共同作業継続のための強力な基盤を築き上げており、最も近い将来に新たな成果に到達できるよう期待したいと述べて講演を締めくくり、さらに来場者からの多分野にわたる質疑に応じた。

